

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成30年6月8日現在

機関番号：32641

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2015～2017

課題番号：15H05162

研究課題名(和文) 19～20世紀中央ユーラシアにおける越境と新疆ムスリム社会の文化変容に関する研究

研究課題名(英文) Cross-border migration in Central Eurasia and cultural transformations of Xinjiang Muslim society in the 19th to 20th centuries

研究代表者

新免 康 (SHINMEN, YASUSHI)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：10235781

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、中国・中央アジア・ロシアなどでの海外調査による新史料の取得と、それらデータの分析を通して、19～20世紀における中国新疆とロシア帝国領・ソ連領ムスリム地域の間の人間的な移動と文化交流の実態を明らかにした上で、新疆のムスリム社会における文化変容の様態を究明した。それにより、政治的な条件に規定されつつ日常的なレベルで移動・移住が行われ、そのことが近代化を初めとする新疆の社会・文化変容に大きな作用を与えていたことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：In this research, through acquisition of new historical documents by overseas surveys in China, Central Asia and Russia, and analysis of these data, we threw light on the actual situation of migrations and cultural exchanges between Xinjiang and the Muslim regions of the Russian Empire and the Soviet Union in the 19th and 20th centuries, and clarified the aspects of cultural transformation of Muslim society in Xinjiang. As a result, it was revealed that migrations were carried out on a daily level while being influenced by political conditions, which had great effect on Xinjiang's social and cultural transformation, including modernization.

研究分野：中央アジア史

キーワード：新疆 中央ユーラシア 越境 ムスリム社会 文化変容 中央アジア タタールスタン 移住

1. 研究開始当初の背景

新疆(中国領中央アジア)は中国の政治的領域の一部である一方、主要な住民であるテュルク系ムスリムの諸民族は現在に至るまで言語・文化面の独自性を維持してきた。その背景としてとくに重要なのは、19世紀後半～20世紀半ばの歴史過程において、中国内地との関係の希薄さと対照的に、西方のロシア帝国領・ソ連領のムスリム地域から多大な文化的影響を受けたことである。

近現代の新疆地域が辿った歴史的プロセスについては、従来は中国の辺疆統治史もしくは清露・中ソ関係史の一環として論じられることが多かったが、この20年余りの間に、従来の研究枠組も踏まえつつ、ウイグル人を中心に、テュルク系ムスリムの諸民族の活動に眼目を置く研究が新たに展開されてきた。しかし、その社会的・文化的背景や思想面に関わる検討は不十分である。

他方、新疆と言語・文化的特徴に近い中央アジアやタタールスタンから新疆への影響は、様々なレベルの境界を越える人々の移動・移住、交流の動きが複合的に作用することを通して現象化してきた。しかしウイグル人の移住にとどまらない、様々なレベルの越境移動・交流と、新疆のムスリム諸民族の社会、とくにその歴史的展開の機軸をなす文化変容との関係性については、中央ユーラシア史の看過できない側面にも拘らず、学術的知見が断片的なレベルにとどまっている。

2. 研究の目的

本研究は、海外調査による新規史料の取得と分析を通して、ロシア帝国領・ソ連領のムスリム地域と新疆の間の人的な移動と交流の実態を明らかにした上で、新疆のテュルク系ムスリム社会における文化変容の様態を究明することを目的とする。それにより、広域的な越境移動のダイナミズムの中で新たな新疆近代史像を提示することを試みる。

3. 研究の方法

(1) 主要な研究対象とする時間的スパンを、テュルク系ムスリムであるタタール人やウズベク人がロシア帝国領から新疆領域内に多数移動してくる清朝末期から、中華民国期を経て、ソ連が新疆情勢に深く関与した中華人民共和国初期までの期間(1880年代～1960年代初頭)に設定する。

(2) 主な研究作業として、上記の期間について、下記の研究作業を実施する。ロシア帝国領・ソ連領(主に中央アジアとタタールスタン)と新疆の間におけるテュルク系ムスリム諸民族の移動・知的交流の具体的な様相を明らかにする。これらの移動・交流との関連性において、新疆のテュルク系ムスリムの社会における文化活動、とくに文字文化とそこで担われる思想的営為が、どのように展開し、変容してきたのか検討を加える。その際、先行研究で明らかにされている彼らの政治

的活動や社会情勢との相関に留意する。以上の検討を統合化することにより、19世紀後半から20世紀半ばに至る時間的スパンを通して、当該地域のテュルク系ムスリム社会における文化の「近代的」展開の相貌を、中央ユーラシアの広域的な歴史的動態の中で、系統的かつ総体的に解明する。

4. 研究成果

(1) 調査研究の内容

19世紀後半～20世紀初頭にかけての時期に、ロシア帝国領と新疆の間における越境移動の基本的な状況、とくに交易活動がどのように行われていたかについて基本的なデータの取得を図るとともに、1940～50年代におけるソ連・新疆関係の政治状況に関するデータの取得に従事した。前者に関しては、史料面でロシア側と清朝側の双方からのアプローチをとることにより、ロシアの文書館と台湾の文書館において関連する文書資料の調査・収集を共同で実施した。これらにより、新疆における文化変容を検討するための前提となる越境移動と政治状況に関わる基礎的なデータを蓄積し、その分析を進めた。

19世紀～20世紀における、新疆と中央アジアの間の越境移動の基本的な状況に関する文字史料データの取得を図るとともに、実際の越境移動の実態と新疆・中央アジア両側の地域社会の具体相について把握するための実地調査・聞き取り調査を実施し、関連データの取得を行った。前者に関しては、台湾の文書館やヨーロッパの図書館において関連する文書史料・写本史料の調査・収集を実施した。後者においては新疆のイリ地域とタルバガタイ地域での実地調査に基づき、越境移動を考える上でポイントとなる国境地帯の都市の地域性に対する理解を深化させるとともに、イリ地域から移住したタシュケント在住ウイグル人研究者からライフ・ヒストリーの聞き取り調査を実施した。これらにより、とくにイリを重点地域とする形で、越境移動を背景とする、新疆における文化変容を検討するためのデータの蓄積と検討作業を進捗させた。

タタールスタンのカザン等において、新疆からの帰還タタール人からの聞き取り調査、図書館におけるタタール語史料の調査を実施することを通して、19世紀～20世紀におけるタタール人たちの交易活動や宗教活動にとともなう、新疆との間の越境移動の基本的な状況、実際の越境移動の実態と彼らの新疆における文化活動等の具体相について関連データの取得を図った。これにより、タタール人ディアスポラが新疆および中央アジアのムスリム地域社会に与えた影響の実相にアプローチするための基礎的な知見を得ることができた。また、カザフスタン・クルグズスタンの文書館・図書館において、新疆との間の移動と交流に関する史料の調査・収集に従事した。前年度の調査に基づく研究成

果も併せ、越境移動を背景とする新疆における文化変容を中央ユーラシア史の変動の文脈において検討する作業を進捗させた。

(2) 主な研究成果の概要

研究手順の2段階の第一段階における研究対象「ロシア帝国領・ソ連領（主に中央アジアとタタルスタン）と新疆の間におけるテュルク系ムスリム諸民族の移動と交流の具体的な様相」について、移動の実態とそれを規定してきた政治的条件等に関する基礎的な知見を明らかにできた。すなわち、ロシア帝国期のロシア領・新疆・中央アジア間の交易の実態、また1940年代における国民政府と東トルキスタン共和国およびソ連との政治的関係、などに関する重要なデータである。付随して、新疆のテュルク系民族と中国内地との歴史的関わりや、中国内地から新疆を経てロシア領に移住した回民の歴史意識などについて興味深い知見が明らかになった。

研究手順の2段階の第二段階における「移動・交流との関連性において、新疆のテュルク系ムスリムの社会における文化活動、とくに文字文化とそこで担われる思想的営為が、どのように展開し、変容してきたのか」という課題について、様々なレベルにおける新知見を明らかにできた。すなわち、ロシア帝国期のロシア領・新疆・中央アジア間の交易の実態、1940年代における国民政府と東トルキスタン共和国およびソ連との政治的関係などに加え、越境移動の具体的な状況とそれを背景とした新疆・ロシア・ソ連領両側の地域社会における文化動態に関わる重要な知見が得られた。付随して、宗教的な側面における越境移動と地域社会との関係、新疆のテュルク系民族と中国内地との歴史的関わり、などについて興味深い側面が明らかになった。

その中でとくに注目される点としては、(i) 歴史の各段階における政治的な条件に規定されながら、直接的に政治変動や社会変動によるもののみならず、宗教活動・交易活動ともなう日常的な次元で越境移動・移住が恒常的に行われていたこと、(ii) このような移動・移住により新疆のムスリム社会、とくに都市社会は、先住のウイグル人を軸としながら、ロシア領・ソ連領からの移住者を含むハイブリッドな民族構成と文化様態をもつ独特な相貌を呈していたこと、(iii) そのことが、各集団間の接触・交流を通して、近代化やコミュニズムの流入・摂取を初めとする社会・文化変容に大きな作用を与えるとともに、ムスリム住民による政治的活動の推進力を支える一要素であったと推察されること、(iv) ただし、新疆各地域におけるタタル人コミュニティは、ウイグル人コミュニティとの間での交流と社会的な協働の一方で、両者間には明確な境界性も存在していたと推定されること、(v) ウイグル人によるロシア領・ソ連領中央アジアへの留学・移住

が新疆のムスリム社会のみならず、逆に中央アジア地域に対しても文化的影響を与えた形跡が見られること、などの諸点を指摘できよう。

本科研の成果の国際的な発信を主要な目的の一つとして、平成27年12月に、合衆国・オーストラリア・台湾・カザフスタンなどから中堅・若手の研究者を招聘し、本科研のメンバーの一部も報告者として、国際学術会議「中央ユーラシアの変容における新疆（18～20世紀）」を開催した。これにより、「越境」と文化変容の問題を含む、現在の新疆史研究の先端的な到達点の一端を示すことができたと考える。さらに、この会議に基づきつつ、その後の本科研の成果も組み込む形で、本科研の研究代表者・研究分担者を編者とする英語論文集である、Onuma Takahiro, David Brophy and Shinmen Yasushi, eds., *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations*, Tokyo: The Toyo Bunko. を平成30年3月に刊行した。本科研の具体的な成果内容は、部分的に本論文集に反映されている。

(3) 学術的位置づけ

従来新疆近現代史研究においては、主に中国の内部状況に即した検討がなされてきた。しかし当時の越境ともなう移動と交流が及ぼした作用の深度と特質に注目しなければ、新疆ムスリム社会の実情に十分に迫ることはできない。本研究では、越境と文化変容という独自の側面から新疆地域の歴史的展開をとらえ直すことを通して、新たな視点から体系的な知見を得ることができた。

中央ユーラシア近現代史研究の分野においては、大きな政治的枠組の変移とそれに応じたムスリム諸民族の社会・文化の変動について、いまだ多くの未開拓の研究領域を残している。本研究では、従来あまり着目されなかった、国家的枠組を超える広域的な地域間交流に視点を据えたアプローチという点において、とくに英語による論文集の刊行による国際的な学界への貢献を軸に、当該研究分野の今後の新たな展開に寄与することができたと考える。

(4) 今後の展望

本課題の扱う歴史的展開の中で大きな比重を占めているタタル人の移動と交易活動の実態については、ロシアの外交文書館所蔵の新疆駐在領事の報告等によるアプローチが有効であると予想されたが、文書館の閉鎖が続いたため、本課題の実施期間においては実現が叶わなかった。同文書館での作業に基づき、根本史料によるさらに具体的な解明が可能になると考えられる。

タタル人の新疆における活動は、タタルスタンなどロシア領居住地域からカザフスタン・中央アジアを経て新疆に移動し、さらに20世紀半ば以降にソ連領に移動する

という広域的な移動とそれともなう各地域におけるムスリム社会の変容の一環として位置づけられる。このような移動と交流のダイナミズムへのアプローチを通して、新疆をはじめとする中央ユーラシア地域の歴史の変動をよりトータルにとらえることが可能になるであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 6 件)

Shinmen, Yasushi, "The Historical Development of Ürümchi: Focusing on Nanliang District from the Late-19th to Mid-20th Centuries," Onuma Takahiro, David Brophy and Shinmen Yasushi, eds., *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations*, (査読なし) Tokyo: The Toyo Bunko, 2018, pp. 79-113.

新免康「中国新疆における歴史書『東方五史』の「アルティ・シャフル」章について」『中央大学アジア史研究』(査読なし) 42, 100-77 ((1) - (24)), 2018.

Onuma Takahiro, "Political Power and Caravan Merchants at the Oasis Towns in Central Asia: The Case of Altishahr in the 17th and 18th Centuries," Onuma Takahiro, David Brophy, and Shinmen Yasushi, eds., *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations*, (査読なし) Tokyo: The Toyo Bunko, 2018, pp. 33-57.

Noda Jin, "Crossing the Border, Transformation of Belonging, and "International" Conflict Resolution between the Russian and Qing Empires," Onuma Takahiro, David Brophy, and Shinmen Yasushi, eds., *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations*, (査読なし) Tokyo: The Toyo Bunko, 2018, pp. 59-77.

熊倉潤「新疆三區革命領導者在中共建政後の政治演變(1949 - 2017)」『東亞研究』(査読あり) 48(6), 2018, pp. 1-38.

Onuma, Takahiro, "The 1795 Khoqand Mission and Its Negotiations with the Qing: Political and Diplomatic Space of Qing Kashgaria," Ildikó Bellér-Hann, Birgit N. Schlyter, and Jun Sugawara, eds., *Kashgar Revisited: Uyghur Studies in*

Memory of Ambassador Gunnar Jarring, (査読あり) Leiden: Brill Academic Pub, 2016, pp. 91-115.

〔学会発表〕(計 5 件)

新免康, 塩谷哲史「タシュケント在住のウイグル知識人の歴史的記憶: 社会変動と越境」日本中央アジア学会年次大会, 2018年3月24日.

Onuma Takahiro, "Dispatch of the Nusan Mission: The Negotiations between Qing and Ablay in 1757," 17th Central Eurasian Studies Society Annual Conference, 2017

濱本真実「ロシア・中央アジア・新疆間のムスリム・ネットワーク: タタール商人の活動を中心に」シンポジウム「通商・巡礼・亡命: 17世紀~20世紀初頭の中央ユーラシアにおける超境界活動」2016年3月12日.

濱本真実「19世紀ロシアにおける正教宣教・イスラーム復興・タタール商人」ロシア史研究会2016年度大会, 2016年10月8日.

Unno, Noriko, "Cooperation and Opposition: The Relationship between Turkic Muslims and Chinese-speaking Muslims in the Early Twentieth Century," International Conference on "Xinjiang in the context of Central Eurasian transformations," 18 Dec. 2015, The Toyo Bunko.

〔図書〕(計 2 件)

Onuma Takahiro, David Brophy and Shinmen Yasushi, eds., *Xinjiang in the Context of Central Eurasian Transformations*, Tokyo: The Toyo Bunko, 2018, 284p.

David Brophy and Onuma Takahiro, *The Origins of Qing Xinjiang: A Set of Historical Sources on Turfan*, Department of Islamic Area Studies, Center for Evolving Humanities, Graduate School of Humanities and Sociology, the University of Tokyo, 2016, 282p.

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等：なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

新免 康 (SHINMEN, Yasushi)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：10235781

(2) 研究分担者

秋山徹 (AKIYAMA, Tetsu)
早稲田大学・イスラーム地域研究所・主任
研究員・研究院准教授
研究者番号：90704809
(平成28年度より研究分担者)

濱本真実 (HAMAMOTO, Mami)
公益財団東洋文庫・研究部・研究員
研究者番号：00451782

河原弥生 (KAWAHARA, Yayoi)
中央大学・文学部・日本学術振興会特別研究員 RPD
研究者番号：90533951

小沼隆博 (ONUMA, Takahiro)
東北学院大学・文学部・教授
研究者番号：30509378

塩谷哲史 (SHIOYA, Akifumi)
筑波大学大学院・人文社会科学研究科・助教
研究者番号：30570197
(平成29年度に研究分担者)

田中周 (TANAKA, Amane)
中央大学・政策文化総合研究所・客員研究員
研究者番号：10579072
(平成27・28年度に研究分担者)

(3) 連携研究者

野田仁 (NODA, Jin)
東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授
研究者番号：00549420

(4) 研究協力者

熊倉潤 (KUMAKURA, Jun)
アジア経済研究所・地域研究センター・研究員

植田暁 (UEDA, Akira)
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・日本学術振興会特別研究員 PD

海野典子 (UNNO, Noriko)

中央大学・文学部・日本学術振興会特別研究員 PD
研究者番号：30815759